

石川 啄木 いしかわ たくぼく

石川啄木（本名・一<sup>はじめ</sup>）は、明治19（1886）年、岩手県に生まれました。生涯生活に苦しみ、アイヌ語研究で名高い親友・金田一京助の支援を受けました。歌集『一握の砂』『悲しき玩具』では青年らしいみずみずしい歌を残し、今でも読みつがれています。明治45年（1912）年に結核のため26歳で亡くなりました。

『一握の砂』  
いちあく すな

とうかい こじま いそ しらすな  
東海の小島の磯の白砂に

われ泣きぬれて

かに わ  
蟹とたはむる

わ はは せおい  
たはむれに母を背負ひて

かろ な  
そのあまり軽きに泣きて

さんほ  
三歩あゆまず

そのかみの学校がっこうのなまけ者もの

今は真面目いま まじめに

はたらきて居おり

ふるさとの訛なまりなつかし

停車場ていしやばの人ひとごみなかの中に

そを聴ききにゆく

はたらけど

はたらけど猶なおわが生活くらし楽らくにならざり

ぢつと手てを見みる

不こ来ず方かたのお城しろの草くさに寝ねころびて

空そらに吸すはれし

十五じゅうごの心こころ

【参考資料】

『日本詩人全集8（石川啄木）』（新潮社）

『一握の砂・悲しき玩具』 石川啄木／著（新潮文庫）

『日本の詩歌 第5（石川啄木）』（中央公論社）